

基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成

創意工夫を生かして子供たちの確かな学力を育成するとともに、社会や環境の変化に主体的に対応できる自立する力を育成します。

施策1 創意工夫を生かした教育指導の実施

施策2 グローバル化に対応する教育の推進

施策3 キャリア教育の充実

施策4 小中一貫に向けた教育の推進

施策5 特別支援教育の推進



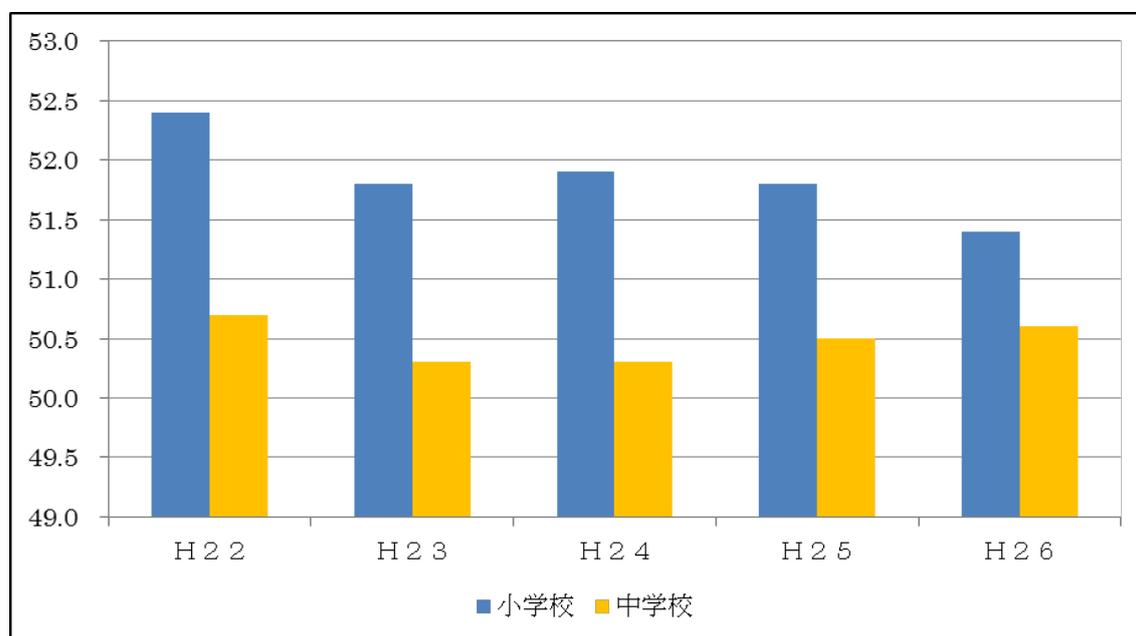
小学校での音楽の授業

施策1 創意工夫を生かした教育指導の実施

現状（課題）

- ◆ 現在、本市では児童生徒一人一人に知・徳・体の基礎・基本の確実な定着を図るため、「教育に関する3つの達成目標」（学力・規律ある態度・体力）などの取組を推進しています。
児童生徒に確かな学力を身に付けさせるためには、各学校が児童生徒の学習内容の定着状況を把握して成果と課題を明らかにし、改善計画を立て、学力向上に向け計画的に取り組むことが重要です。
- ◆ 幼稚園・保育所などから小学校そして中学校へと、学習環境の変化に伴う子供たちの不適応を解消し、個に応じた指導を推進することが確かな学力の定着には不可欠です。少人数指導やチームティーチングなどきめ細かな指導が必要です。
- ◆ 学校の教育力の向上を目指して、各学校が児童生徒の実態を踏まえ、常に指導方法の工夫・改善を図り、研究・実践を重ねることが重要です。

<上尾市立小中学校学力調査結果>



※全国標準を50とした場合の小中学校の経年比較

小学校3年生～6年生：国語と算数を統合した数値

中学校1年生～3年生：国語・数学・英語を統合した数値

主な取組

1 確かな学力の定着と学力向上の推進

- 学習指導要領に基づき、児童生徒一人一人に「読む・書く」「計算」を中心として、基礎的・基本的な内容を身に付けさせます。また、学んだ知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などの学力を育成します。
- 市や県の学力調査結果などにより、各学校が自校の児童生徒の学力や学習の状況を把握し、学校の課題改善に向けた「学力向上プラン」を作成します。また、そのプランに基づいて指導方法の工夫・改善を図り、児童生徒に確かな学力を身に付けさせます。
- 子供たちが自ら課題を見つけ、多様な他者との協働によって課題解決を図る力の育成のため、主体的・能動的な学びを重視した学習指導を展開します。
- 中学校1年にアップスマイル教員を配置することにより、少人数学級を編制し、個に応じたきめ細かな学習指導を展開します。

2 魅力ある学校づくりの推進

- 市立幼稚園及び小中学校に計画的に研究委嘱することを通して、各校が創意工夫を生かした教育活動を展開できるよう指導・支援し、魅力ある学校づくりを推進します。
- 研究発表を通し、研究成果などを全ての学校で共有化することにより、市全体の教育水準の向上を図ります。



芝川小学校



東中学校

上尾市教育委員会委嘱研究発表会

施策2 グローバル化に対応する教育の推進

現状（課題）

- ◆ 国際社会の一員として、主体性を持って積極的にその役割を果たす人材を育成するために、わが国や郷土の伝統や文化に関する教育の充実が必要です。
- ◆ グローバル化に対応するためには、児童生徒が豊かな国際感覚を身に付け、コミュニケーション能力を高めるとともに、様々な交流体験などを通して、諸外国の文化への理解を深めることが重要です。
- ◆ 持続可能な循環型社会を実現するためには、次代を担う児童生徒が、環境問題などの地球的規模の課題についての理解を深め、一人一人が自分にできることを考え、実践していくことを身に付けることが重要です。

主な取組

- 1 伝統文化に親しむ教育の推進
 - 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などを通して、児童生徒がわが国や郷土の伝統や文化に対する理解を深める学習を推進します。
- 2 外国語教育の推進
 - 「生きた英語」を学ぶことができる学習環境を整え、外国語学習の動機付けを図り、コミュニケーション能力の基礎を養うために、教員と外国語指導助手（ALT）とのチームティーチングによる授業を行います。
 - 優れた外国語指導助手（ALT）の確保に努めます。
 - 外国語指導助手（ALT）と児童生徒との交流を通して、異文化に触れる機会を多くし、外国語活動や国際理解教育の推進に努めます。
 - 市立中学校の3年生を対象とした海外派遣研修を、夏季休業を利用しオーストラリアで実施します。
 - 小学校高学年における英語教育の教科化及び中学年から外国語活動の開始に伴い、研修を充実させ、指導体制の強化に努めます。
- 3 持続可能な循環型社会の実現のための教育の推進
 - 環境、食糧、エネルギーといった様々な地球規模の課題に対して、児童生徒が理解を深め、自らの課題として捉え、主体的に活動を実践する態度を持つことができるよう、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点をもって、全教育活動を通して取り組みます。

施策3 キャリア教育の充実

現状（課題）

- ◆ 児童生徒が社会人・職業人として自立できるようにするためには、一人一人の勤労観や職業観を育成するとともに、社会性や自立心などを育て、自らの生き方を考え、進路を主体的に選択・決定できるようにすることが重要です。児童生徒が職業や勤労及び学校での学習や諸活動に関心を持ち、積極的に関わろうとする意欲を持つよう指導・援助する必要があります。
- ◆ 中学生が主体的に適切な進路を選択できるよう、全ての教育活動を通じて、組織的・系統的な進路指導を充実することが必要です。

主な取組

1 キャリア教育の推進

- 児童生徒が明確な目的意識を持って主体的に自己の進路を選択できる能力を身に付けられるよう、発達段階に応じたキャリア教育を推進します。
- 児童生徒が社会人・職業人として自立できるよう、地域や産業界と連携・協力し、望ましい勤労観・職業観を育成します。

2 中学校での進路指導体制の充実

- 生徒が主体的に適切な進路選択を実現できるよう、進路指導・進路相談を充実します。
- 生徒一人一人に適切な進路指導を行うために、組織的に対応する指導体制の充実を図ります。

施策4 小中一貫に向けた教育の推進

現状（課題）

- ◆ 「小1プロブレム」や「中1ギャップ」と呼ばれる進学に伴う新たな環境への不適應などの課題が深刻化しています。
- ◆ 幼稚園・保育所における主体的な遊びを中心とした総合的な指導から、小学校の指導まで一貫した流れが円滑に接続されるよう、幼・保・小の更なる連携・交流が必要です。
- ◆ 小学校から中学校への滑らかな接続のため、小中一貫への教育の推進に取り組む必要があります。
- ◆ 進路指導やキャリア教育の充実の面において、高等学校や特別支援学校との連携を深めることが重要です。

主な取組

- 1 小中一貫を見据えた教育課程の編成
 - 小中一貫に向けた教育を推進するため、校種を超えた教職員・児童生徒の交流を図り、小学校・中学校の9か年を見据えた教育課程を編成します。
- 2 各学校種間の協力と連携の推進
 - 小1プロブレム、中1ギャップの解消や円滑な接続の為に、中学校区における異校種間の連絡会や研修会などを定期的 to 実施し、情報交換を通して共通理解を図り、幼・保・小・中の連携を更に推進します。また、高等学校や特別支援学校との連携にも取り組みます。

施策5 特別支援教育の推進

現状（課題）

- ◆ 特別な教育的支援を必要とする幼児・児童生徒に対し、障害による学習上または生活上の困難を克服し、自立を図るための教育を推進する必要があります。そのためには、学校全体の指導体制を充実するとともに、教員一人一人の資質の向上を図ることが重要です。
- ◆ 障害のある児童生徒一人一人のニーズに応じて、長期的な視点で幼児期から一貫した教育的支援を行うことが重要です。
- ◆ 障害の有無にかかわらず児童生徒と一緒に学ぶ機会を拡大し、インクルーシブ教育システムの構築に向け「心のバリアフリー」を育み、共生社会を支える特別支援教育を推進していくことが必要です。

主な取組

1 特別支援教育体制の充実

- 各学校に特別支援教育コーディネーターを配置し、教育コーディネーターを中心に教育センター等関係機関との連携を図るとともに、アップスマイルサポーターや特別支援学級補助員を配置するなど個別の指導・支援を行い、特別支援教育体制を充実します。



アップスマイルサポーター

- 特別支援教育コーディネーター研修を実施し、教育コーディネーターの資質向上に努めるとともに、各学校における特別支援教育に関する研修の実施や校内支援体制の整備・充実を図っていきます。

2 インクルーシブ教育の推進

- 特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、保護者や関係機関との連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズに応じた教育支援プランを作成し、計画的な支援を行います。
- 就学支援委員会の充実を図るとともに、特別支援学校との支援籍学習により、障害のある児童生徒とない児童生徒との交流及び共同学習を推進します。